

ひゃくじゅ



平塚花菜ガーデン 平成28年5月24日撮影

広報誌「ひゃくじゅ」の由来

「ご利用者・職員ともに幸せでありたい」という、大磯幸寿苑の願いが込められています。

～～～ 経営理念 ～～～

「高齢者はすべて我々社会の功労者であり人生の大先輩である」との理念に基づき、幸寿苑は設立されました。加齢による心身の衰えは何人も避けることのできないことであり、それ故に、一層の敬愛の情と細心の注意をもって高齢者に接しなければならぬと、私どもは考えております。

少しでも内容豊かな生活をしていただき、一日でも早い家庭復帰と自立ができるよう最善の努力をして参ります。

医療法人社団 幸寿会
介護老人保健施設 大磯幸寿苑

∞∞∞ コンテンツ ∞∞∞

☆表紙

広報誌「ひゃくじゅ」の由来、経営理念

☆大磯のイベント「西小磯の七夕行事」

☆外出レク 平塚花菜ガーデン

☆エッセイ 医師 金子 靖

☆デイケア 季節制作「団扇づくり」

☆七夕飾り 2階ギャラリー

☆これからのイベント案内

☆職員紹介 看護師 飯田まち子

☆消防設備検査について

☆火災避難・消火訓練について

☆役職人事

☆アクセス



エッセイ

家庭における年中行事

医師（施設長） 金子 靖

私が幼少のころから家庭で季節ごとに行われていた親の代からの行事がありました。1月7日の朝食はお正月に飲み食いした飽食をいやすために「七草粥」を食べ、引き続き11日には「鏡開き」と言って鏡餅を砕いて汁粉にして食べ、15日には小正月にかこつけて一家の健康を祈るため行事としての「小豆粥」を食べています。2月3日には「鬼は外、福は内」と大声を上げて豆撒きを行い、3月3日には1年間眠っていた雛人形を雛壇に飾り甘酒を飲んでひな祭りし、5月5日には端午の節句として五月人形を飾り（男の子のある家庭では「鯉のぼり」を揚げ子供の出世を願います）また邪気を払うといわれのある菖蒲を湯に浮かせて入浴しています。書物によればこの風習は室町時代からとの事です。7月の七夕祭では短冊に願い事を書いて笹に吊り下げ、9月には昭和41年に制定された敬老の日に因んで高齢者を敬いそして労り、秋になると十五夜と十三夜には秋の果物とお団子そしてススキを月に向かって供え、12月には冬至の日にかぼちゃを食べ、更にこの日に酒を飲み「ゆず湯」につかると風邪をひかないといったいわれを信じ、12月31日には年越しそばで年を越すとといったのが家庭の年中行事となっています。

古来この行事の内そのいくつかは食事と関係するもので有り、既に当苑でも食卓に上っていますが、菖蒲湯やゆず湯など入浴に関係する行事のほか季節を感じさせる幾つかの行事等も取り上げればと考えます。当苑に入所している方々は殆どの方が此れ等を習慣として行ってきたのではないかと思います。当苑が家庭の延長上にあるという事を謳っているのです、来し方を思ばせて差し上げる為の糧に出来ればと思う所です。



デイケア 季節制作 団扇づくり



6月13日～7月中旬、季節制作として団扇づくりを行いました。ご利用者が自分で、朝顔か金魚かを選択し半紙で朝顔の形を作り絵具で色付したものを、また、折り紙で金魚を折った物をそれぞれ無地の団扇に貼り付けました。



七夕飾り

入所者様、デイケアご利用者の方々が七夕飾りを作り、五色の短冊に願い事を書いてギャラリーに飾りつけしました。



これからのイベント案内

8月6日（土）夏祭り

毎年大勢のボランティアや地元の皆様のご協力をいただき、盆踊り、和太鼓の演奏、ソーラン節の踊りと花火大会、屋台も多数出て祭りを盛り上げます。



平成27年「夏祭り」

9月17日（土）敬老会

多年にわたり社会に尽くしてきたご利用者を敬愛しその長寿を祝い劇を演じます。

今年はどんな演劇が観られるかお楽しみに！！



平成27年度
演劇
「水戸黄門」

【大磯のイベント】

西小磯の七夕行事

七夕は、一般的には中国の牽牛織女の伝説に由来する星祭りとしてのイメージが強いようです



が、町内ではそれとは違った性格をもつ行事として行われており、西小磯の七夕は月遅れの8月に行われます。8月6日の朝、里芋の葉の露を集めて墨を摺り夕方に色とりどりの短冊に家族の名前や願い事を書いて笹竹につけて門口に立えます。竹飾りは7日の夕方、近くの川に流しますが、西久保では鳥除けや虫除けとして畑に立てておくこともありました。

また、西小磯では子供連と呼ばれる子供だけの組で行って来ました。ここでは毎年当番の家を決め、6日に竹飾りを持って集まりました。そして、村内のセエノカミ、神社、地神、井戸、辻などをまわり、唱え言をしながら竹飾りを地に叩き付けて祓います。次いで、竹飾りを束ねて竹神輿を作り、再び村内を祓いながら練り歩きます。また、組によっては狐、猿、オカメ、ヒョットコの面をかぶり、踊りながら各家を訪問したこともありました。

この行事は、かつて村に悪い病気が流行ったため、疫病神をお祓いしたのが始まりで、盆のオショロさんー祖先の霊ーを迎えるにあたり、村内を浄めているのだと伝えています。

また、竹神輿は龍の形を表しており、雨乞いを兼ねているのだとも言われています。この行事は、東地区は男子のみ、西地区は男女とも参加する。七夕のことをうたった盆歌を唄うこともありました。

この行事は、平成20年2月5日神奈川県指定無形文化財に指定されました。

(大磯町 Isotabi.com より)

外出レクレーション

平塚花菜ガーデンに行ってきました

5月9日から5月30日にかけて、1階ご利用者7回、2階ご利用者は8回に分かれローズフェスティバル 2016～春～in 花菜ガーデン



とに見ることが出来る歴史園です。今春のピーク時には、約1300品種・約1900株のバラが開花するそうです。

に行ってきました。このバラ園は品種改良の歴史に沿って系統・分類ご



のよさにため息をつき、多数の花をつけるツルバラを湘南の海をイメージした、よこに大きく波打つ形のツル棚、バラのアーチの数々の連続で、観に来てよかったと喜ばれていました。バラを背景に記念写真も撮り、来年もぜひ見に来たいと話されていました。

「世界バラ会連合」の会議において選出された殿堂入りのバラが多くみられ、ご利用者の方もその美しさ・香りのよさにため息をつき、多数の花をつけるツルバラを湘南の海をイメージした、よこに大きく波打つ形のツル棚、バラのアーチの数々の連続で、観に来てよかったと喜ばれていました。バラを背景に記念写真も撮り、来年もぜひ見に来たいと話されていました。



ご利用者総数70名の方が見学されました。



平成28年5月26日撮影

職員紹介

大磯幸寿苑に就いて

看護師 飯田まち子

なだらかな坂道を上り目前に開けた青い空に石造りの建物を目にした時、就職を決めました。



もう6年前になります。

この季節、山々の緑は色濃く中庭では梅雨の花々が彩りを添えています。先日も苑の年中行事である散策が実施されました。

花の香りに誘われての気分転換である。今その模様が廊下いっぱいに掲示され利用者様の笑顔がとっても素敵に映えている事がなによりです苑では利用者様の色々な暮らしがあります。

ある日の夕方はどこからともなく合唱（ア・カペラで）が始まります。歌集を持ち寄った皆様の唄声です。それは懐かしいメロディー、遠い日の思い出、そして追憶と・・・私も一緒に口ずさみたくなり“唄う事は呼吸リハビリにとっても良いのよ”・・・と云いながら。

施設での看護師の役割には、利用者様の心身の状態や生活の状況を把握することもあります。元気がない、転倒を繰り返す、フラフラしている、車椅子の操作が出来ない、姿勢が悪い、めまいがする、胸が痛い、熱がある便秘がある、等・・・サインを見逃さない事が大切で、それに伴い急変や突発的な出来事にすみやかに対応します。そこには通常の日常風景があり、利用者様と関わっていく中でその人の生き方を支えるために、傾聴、見守り寄り添っていきたいと思います。

人は誰しも老いてゆきます。これからも色々な



エピソードを基に、看護便りとして皆様に日常風景を発信できればと考えております。

消防設備検査がありました

6月29日（水）午前9時から大磯町消防署員立会いのもと、当苑消防設備について立ち入り検査があり、消火器の本数や使用期限等について注意がありました。



火災避難訓練を実施しました

6月29日（水）午後2時より、午後2時に出火した想定で、火元確認、初期消火、消防署への通報、避難誘導と避難者（入所者、デイ利用者、施設職員）の確認の訓練を実施しました。その後、消火器・散水栓を使った消火訓練では



屋内散水栓を使用した消火訓練と消火器を使用した消火訓練等、大磯町消防署や防災業者の立会い指導のもと約

1時間訓練を実施しました。

終了後、消防署員より実際に火災が発生した想定で、迅速な消火対応と避難訓練、また消防署への連絡方法等について指導がありました。

役職人事について

平成28年6月1日付発令されました。

相談部主任・・・小松悦子

アクセス



介護老人保健施設 大磯幸寿会

〒255-000 神奈川県中郡大磯町西小磯 2466 番地

TEL 0463-60-3525 FAX 0463-60-3526

ホムパ-ズ <http://www.koujukai.com/oiso/>